

第3節 授業実践3 小学部2年「どうぶつ園のじゅうい」（光村図書こくご2年上たんぽぼ）

実施時期：平成25年10月

授業の視点

- ・ 既習の学習内容を絵や画像で残し、操作したり書き加えたりすることや、実際に見立てたり再現したりして確認することが、児童の学習意欲を高めたり、内容の読み取りを深めたりするための有効な手立てとなっているか。
- ・ 予め動物の生態に関わる本や写真や動画などを扱ったり、生活場面と結びつけて考えたり、事前に難語句や未経験の情報を補ったりすることで学習活動をスムーズにすることができたか。

1 学級及び児童の実態 ※ 授業実践2「スイミー」と同一学級

2 題材について

《教材の考察及び設定理由》

本学級では、2年生の説明文として、「どうぶつ園の赤ちゃん」「たんぽぼのちえ」と学習を進めてきた。説明文の学習では、時間的順序を意識して読んだり、わけを表す叙述に着目して考えたりすることを大切にしてきた。また、見立てや動作化を学習活動に多く取り入れることで、内容や細かな表現を確認しながら読み進めてきた。更に、丁寧に音読して、動作化することを継続し、「どうぶつ園の赤ちゃん」では、描かれている赤ちゃんの様子を比較しやすいようにした。「たんぽぼのちえ」では、実際に観察することも取り入れ、働かせている知恵を具体的にイメージしやすいようにしてから、内容を読み取ったり考えたりすることにつなげてきた。

本題材「どうぶつ園のじゅうい」は、主人公である私の目線で、動物の手当などを通して獣医の仕事の1日を日記のように時間に沿って順序よく紹介したものであり、時間的な順を追って考えることができる。また、「毎日すること」と「今日だけのできごと」というまとまりでとらえることもでき、事柄の順序ということも併せて指導することができる。

この題材は、子どもたちにとって人気のある動物園の「動物」と動物園のお医者さん「獣医」を題材としているので、生き物に興味・関心をもち、触れ合う事を好むこの時期の子どもたちに適した親しみやすい内容である。自分が知っているお医者さんと獣医さんを比べたり、人間の病気と動物の病気を比べたりする見方は、感想をまとめるときのよい観点となる。さらに、随所に、挿絵として登場する動物園の略図、動物たちの写真や絵は、教材文の叙述にあわせながら、読み取りの手がかりをつかむのに適しているため、獣医の苦勞・知恵にも気づかせながら自分なりの感想をもてるように働きかけたい。

3 題材の目標

- (1) 「はじめ・中・おわり」の構成であることを理解し、時間的な順序や事柄の順序を考えながら獣医の仕事やそのわけを読み取り、感想を書くことができる。（読むこと・書くこと）
- (2) 「～するころ」「～のおわりに」など、時間的順序を表す言葉を理解して、読んだり

書いたりする。(言語事項)

- (3) 自分の経験と動物園や草原の動物の生活を結びつけて動物の気持ちを想像したり、動物園で働く人の仕事に興味をもったりしながら、学習に取り組むことができる。(関心・意欲・態度)

4 題材の指導計画と指導・支援の方針

(1) 題材の指導計画 (本時 8 / 17 時間扱い)

- ① 全文を読み、感想を書き、発表し合う。 1 時間
- ② 全文を読み、「はじめ・中・おわり」の文章構成をつかむ。 1 時間
- ③ 獣医のしごととわけを順序に気をつけながら読み取る。
- ・ 「朝のしごと」(P109～P110) について読み取り、考える。 4 時間
- ・ 「その日だけのしごと」(PH2～P114) について読み取り、考える。 6 時間 (本時 2/6)
- ・ 「1日の終わりのしごと」(PH5) について読み取り、考える。 3 時間
- ④ 獣医のしごとについてまとめる。 1 時間
- ⑤ 「ひきつけられた」ところについて、感想を書き、発表する。 1 時間

(2) 指導・支援の方針

◎本学級の児童の実態を踏まえて本教材を読み進めていく際に重点をおいていること。

※ゴシック箇所は、本時の授業の視点と関わる内容

観 点	指 導 ・ 支 援 の 方 針
話すこと・聞くこと(ア)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し手に注目し、内容を理解するように促し、分からないことを尋ねることを習慣化する。 ・ 相手に伝えようという気持ちではっきり話すように支援する。また、児童に合わせた話し方や伝え方を具体的に示したり、方法を伝えたりするよう心がける。
書くこと(イ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 板書や教材文を見て、内容を理解して文を書き写せるように、児童の語彙力に合わせて個別に丁寧に確認する。 ・ 自分で考えたことを言語化し、文末までしっかり表現し、音韻を意識しながら書けるように促す。 ・ 自分で書いた文を読み直させたり、誤った部分を読んで聞かせたりすることで、濁音、撥音、促音、長音等の表記の誤りに気づけるように働きかける。
読むこと(ウ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材の挿絵や補足の絵等を活用し、時間的順序に沿って、主語を確認しながら、場面の状況や様子を明らかにする。また、活用した絵を残したり、操作したりすることで、既習内容を思い浮かべることができるように配慮する。 ・ 見立てや再現により、理解された内容を言語化し、原文や言葉と結びつけられるように働きかける。 ・ 音読の機会を多くすることで、個々のつまづきを明らかにし、個別の課題に合わせた支援を心がける。
言語事項(エ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主語を意識させ、出来事を明らかにし、登場人物の言動や心情を自分なりに理解し、わかったことや知りたいことや感想などをプリントにまとめる

	<p>ことができるように配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カードを使うことで、着目すべき点をわかりやすくし、繰り返し練習しながらポイントをつかんでいけるように配慮する。 ・ Eに対しては、T2が個別にポイントとなる言葉と意味を結びつけるように支援する。語彙の少ないFには、必要に応じて、手がかりを与えながら、自主的に考えるように促す。 ・ 難語句、説明の難しい言葉などは、あらかじめ生活の中で投げかけ、使い慣らしておけるように配慮する。(本時では「～ころ」、「～かどうか」、「みる(診る)」、「さぐる」、「こわがる(こわがらない)」、「当てる」、「～してみる」、「まちがいない」等)
関心・意欲・態度(オ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表の際には他の友だちに伝わるように話し、聞く際には最後まで聞いてから意見を言えるように、普段の生活の中でも常に働きかける。 ・ 見立てや再現、発表など、自分から積極的に参加できるような雰囲気作りを心掛ける。また、様々な意見を受け止める態度の見本を示す。

5 本時の指導計画

本時の学習場面：光村図書 こくご2年上「どうぶつ園のじゅうい」p112 4～9行目

(1) 目標

- ① 前時の学習を振り返り、『見回りがおわるころ、獣医がいのししにしたこととそのわけ』を読み取ることができる。
- ② 獣医といのししの関わりを読んで、気づいたことやわかったことをまとめることができる。

(2) 評価の観点

【全体の評価】

- ・ 獣医がいのししにしたことを具体的にイメージしたり、そのわけを考えたりしながら内容を読み取ることができたか。
- ・ 獣医といのししの関わりを読んで、気づいたことやわかったことを表現できたか。

【個別の評価】

児童	評 価 内 容
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ いのししのおなかに赤ちゃんがいるかを確認するため、獣医がいのししに 機械を当てる際に、考えたことや工夫したことをイメージすることができたか。 * 赤ちゃんがいるかみてほしいと頼まれたから、こうやって機械を当てておなかの中を探ったんだよね。 ・ 獣医といのししとの関わりから、気づいたことわかったことを正しい文で表現することができたか。 * いのししが怖がらないように、飼育員さんがえさをあげた。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ いのししのおなかに赤ちゃんがいるかを確認するために、獣医が飼育員と 協力して機械を当てたことを具体的にイメージし、詳しく表現できたか。 * いのししのおなかの中を見るために、飼育員さんがえさをあげて気がつかないようにそっと機械を当てたんだね。 ・ 獣医やいのししの様子を思い浮かべ、不思議に思ったり、自分で考えたりしたこと

	<p>を表現できたか。</p> <p>* どうして機械を当てると、いのししのおなかの中が見えるのかな。</p>
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ いのししのおなかに赤ちゃんがいるかを確認するために、獣医がいろいろ工夫して機械を当てたことをイメージし、文で表現できたか。 * いのししが怖いから、えさをあげて、そっと機械を当てたんだよね。 ・ 獣医といのししの関わりから、気づいたことや思ったことを表現することができたか。 * 機械は、どうするのかな？
D	<ul style="list-style-type: none"> ・ 獣医がいのししにやったことを、再現を手がかりに理解し、原文と結びつけることができたか。 * 機械をそっと当てた。(身振りをしながら) ・ 再現を通して、獣医といのししの関わりについて、自分の思ったことを表現できたか。 * おなかに赤ちゃんがいるの。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・ 獣医がいのししにやったことを、絵と再現から大まかに理解し、キーワードと結びつけることができたか。 * そっと当てた？ ・ 再現を見て、獣医といのししの様子を思い浮かべ、簡単な思いを表現できたか。 * 赤ちゃん？
F	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前後のつながりを意識し、絵や再現を手がかりに、獣医がいのししのおなかに機械を当てたことをイメージし、簡単な文で表現できたか。 * 赤ちゃんがいるかなあって、機械をそっと当てた。 ・ 獣医がいのししにしかことを思い返し、気づいたことやわかったことを簡単な言葉で表現できたか。 * 赤ちゃんがいるからうれしいかな？

* 予想される児童の反応の具体的な例

(3) 準備

児童：教科書、ノート、筆記用具、学習プリント

指導者：拡大文、学習プリント、挿絵、前晴までの学習の経過の板書（絵）、提示用カード（めあて、質問等）、ペープサート、事前指導に活用した画像やカード

(4) 本時の展開

学 習 活 動	単 位	教師の支援および留意点	評価の観点
<p>1 本時のめあてを知り、前時で学習した内容を振り返る。</p> <p>・ 第3段落を音読する。 (1人ずつ句点読み)</p>	10分	<p>今日も、獣医さんの仕事について考えてみましょう。獣医さんは、見回りがおわる頃、飼育員さんに呼ばれて、いのししのところへ行きましたね。そのわけを思い出しながら、教科書を読みましょう。112 ページ の 1 行目から 9 行目までです。</p> <p>教科書を持って。今日は〇〇さんから、まる読み（句点読み）です。聞くときは、指を出し（身振り有り）、指しながら聞きましょう。</p> <p>・ 聞き取りにくい発音の矯正、まとめ読みの誤り</p>	<p>教師の発問・指示</p> <p>読み手を意識し</p>

<p>・ 獣医がいのししのところへ行ったわけを確認する。</p>	<p>は、読み直すように促す。(A,B,C,D) (ウ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で気づけない場合には、拡大文で示したり、音節数を指で出したりして意識させる。(F) ・ 言葉のまとまりを意識させる。(E) ・ 事前に難しい言葉や表現に関しては扱っておくが、児童が読んだり、聞いたりしている様子で、理解の程度を確認する。(A,B,C,D,F) ・ <u>読み手や聞き手を意識できるように声をかける。考えながら読んだり聞いたりしている児童を賞賛する。</u>(A,B,C,D,F) (ア) ・ 聞くときには、必要に応じてT2が指し示したり (E)、読み手を見るように促したりする。読むときには、言葉のまとまりを意識させたり、リズムカルに読んだりできるように働きかける。(E,F) (ウ) <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(地図とペープサート、前時の学習の絵を使って) 飼育員さんに呼ばれて、獣医さんはいのししのところへ行きましたね。どうしていったのかな。わけはなんでしたか。(4)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ D、Fが考えているようだったら、絵の方に視線を向け、少し待つ。女子の手が挙がったら、指名する。(オ) ・ 前時の学習の記録は見やすいところに掲示しておき、獣医や飼育員の動きや学習内容を思い出せるようにする。(5) ・ 最後に、「～から」と続けられるように聞かされたり、手がかりを与えたりして正しい文の形で答えられるようにする。(A,B,C) ・ 考えつかない時には、答え方の例を挙げて、イメージしやすくする。(D,F) (エ) ・ 必要に応じてT2がペープサートと吹き出しを示し、考えやすくする。(E) ・ お互いの意見を聞き合い、自分の意見と比較して答えられるように視線を向ける。(A,B,C,D,F) (ア) 	<p>て(見て)文を追って確認しているか。</p> <p>(A,B,C,D,F)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読み手を自分から見ようとしているか。(B) ・ 知っている言葉を意識して読んでいるか。(E) ・ 言葉のまとまりを意識しながら読んでいるか。(F) ・ 読み誤りがあったときに、自分で気をつけながら読み直すことができるか。(A,B,C,D) <p>聞かれたことを理解し、前時の学習を想起してわけを答えることができるか。</p> <p>みんなに伝えようという気持ちをもって(B,F)、文末まで答えることができるか。(A,B,C,D,F)</p> <p>言葉の意味を考えて答えようとしているか。(E)</p>
----------------------------------	---	---

		<ul style="list-style-type: none"> 発表する際は、発声、口形、姿勢など個人の課題に合わせて、声をかける。(特にB,F) 	<p>相手の意見を聞いて反応しているか。 (A,B,C,D,F)</p>
<p>2 獣医がいのししにしたことや考えたことを詳しく読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 赤ちゃんがいるかどうか確認するために、いのししのおなかに機械を当てることをイメージする。 	<p>25分</p>	<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p>(ペープサートで主語を確認しながら) 飼育員さんに呼ばれて、赤ちゃんがいるかどうか確かめに行ったんだよねどうすれば、赤ちゃんがいるかどうか、わかるのかな。</p> </div> <p><予想される児童の反応> 「さぐるためには、きかいをおなかに当てなければなりません。」(A) 「こうやってして、おなかのようすを見れば、わかります。」(B) 「きかいをつかうかな？」(C) 「おなかを見ると思います。」(D) 「わからない。」(E) 「こうする?かな・(小声で)」(F)</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要であれば、赤ちゃんがどこにいるのか(D,E)、それは見えるのかどうかを確認し、見立てたり、再現したりする。 本文に何と書いてあるかを確認し、「さぐる」という言葉に注目できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 獣医が赤ちゃんがいるかをみるためにすることを文章を読んで考えているか。(A,B,C,D,F) どこに赤ちゃんがいるのかを理解して考えているか(D,E) 再現する際に見立てた物や人を確認できているか。(A,B,C,D) 再現を見て機械を当てることがイメージできるか。(D,E)
		<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p>おなかの中の様子を見ることを「さぐる」と書いてあるけど、獣医さんはどうするのか。やってみてください。じゅういさーん。(ペープサートを提示する)(エ)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 『さぐる』を言葉で説明するのは難しいと思われるので、実際に再現させることで理解しているか(A,B,C)言葉の意味を捉えられたか(D,F)を確認する。(1) T2が個別に「さぐる」に着目させて動作と結びつける。(E) 機械をもっているような身振りをしたら(A,B,C,F)、それは何かを確認する。 必要があれば、機械として見立てられるものを 	<ul style="list-style-type: none"> 「さぐる」という言葉のイメージをもって再現することができるか。(A,B,C) 再現を見て「当てる」と「さぐる」の違いがイメージできる

<ul style="list-style-type: none"> いのししの気持ちや行動を考える。 	<p>提示する。(D,E,F)</p> <ul style="list-style-type: none"> 再現の中で「だれが」いのししに 機械を当てるのかを確認する。 <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(見立てたものを提示して) 機械をおなかに当てたら、いのししは、どう思うかな。</p> </div> <p><予想される児童の反応> 「こわがらないように、えさを食べさせると思う。」 (A)* 「いやだなって逃げると思う。」(B) 「うしろににげると思います。」(C) 「くすぐったい。」(D) 「やだ。」(E) 「こわい?かな・・・(小声で)」(F)</p> <p><教師の対応例></p> <ul style="list-style-type: none"> * 他見の反応を待ってから、A児が気づかない場合には、「そう書いてあるよね。でも、先生は、なんて開きましたか。『いのししは、どう思うかな。』って聞いたね・・・ • 以前に、うさぎを触ったときにうさぎがどんな気持ちだったかを思い出させ、いのししも、うさぎと同じように、こわいからじっとはしていないということを確認する。(1) 	<p>か。(D,F)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「さぐる」という言葉を意識できたか。(E) • 獣医が機械を当てていることを理解しているか。 <ul style="list-style-type: none"> • いのししの気持ちを考え、身振りや(E)簡単な言葉(D,F)や文(A,B,C)で答えられるか。 • うさぎを触った経験を思い出し、怖がることをイメージできるか。
<ul style="list-style-type: none"> 獣医がいのししのために工夫したことを考える。 	<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>いのししも、うさぎみたいにこわいから、じっとしていないよね。じゃあ、獣医さんは、どうすればいいのかな。(カード提示)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> • 「押さえつける」とか「無理矢理」という意見が出た場合には、他の児童に考えるような働きかけをして、意見を待つ。 • 「そっと当ててみました」という答えに対して、理解しているか再現させる (D,E,F)。さらに、その反応の様子で理解しているか (A,B,C) 確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> • 友だちの意見と自分の意見を対比しながら考えることができるか。(A,B,C) • 再現を手がかりに(D,E)「そ

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挿絵をよく見て考えるように働きかける。(D, F) ・ T 2 が個別に言葉と動作を結びつける。(E) (3) <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">「そっと機械を当てたよね。」それだけかな？ ひとりでやったのかな？ (エ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本文では省略されている、「だれが、だれに」などを児童の実態に合わせて言葉 (A,B,C) や再現など (D,E,F) で確認する。その際に、きちんとした文の形で文末まで答えられるように働きかける。(A,B,C,D,F) ・ 内容を考えずに、ただ再現を模倣しているようなら、大切な原文や言葉と結びつけて、思考を促す。(D,E) ・ 言葉で表現できないときには身振りや再現などの方法を使うように促す。(F) ・ 実際に再現させながら、名前や行動を確認することで獣医がいのししにしたことや飼育員がしたことがイメージできているか、言葉や表現と結びついているかを確認する。(5) <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">(ペーパーサートを操作して)機械を 当ててわかったことは、何ですか。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正しい文で答えられるように必要に応じて拡充模倣を促す。(A,B,C) ・ 見立ての機械を使って再現し、何が見えたかを確認する。(D,E,F) 	<p>っと当てる」ことがイメージできるか。(A,B,C)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挿絵や再現を手がかりに (D,E,F)、本文から飼育員さんがえさをあげていることを理解しているか。(A,B,C) ・ だれが、何をしたかをイメージして(E)言葉 (E,F) や 文 (A,B,C)表現できるか。 ・ 原文に頼りすぎず、自分の考えを答えているか。(A,B,C) ・ 赤ちゃんが見えたことを理解しているか。(D,E,F)
--	--	--

<ul style="list-style-type: none"> いのししのおなかの中に赤ちゃんがいたことが確認できたときの様子を読み取りみんなの気持ちを考える。 「まちがいありません」という表現について考える。 	<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>いのししのおなかの中に赤ちゃんがいて、わかったんだよね。だから、獣医さんと飼育員さんは、どんな気持ちだったかな。 (少し、反応を持ってから、) がっかりしたんだよね。</p> </div> <p><予想される児童の反応> 「え?っ。ちがうでしょ。赤ちゃんがいるから、まちがいありませんって」(A) 「エー、おかしいよ。うれしくてたまらないんですよ」(B) 「えっ? よろこんだ?」(C) 「えーっ。(模倣のみ)」(D) 「・・・?」(E) 「ちがう! うれしいかな?」(F)</p> <ul style="list-style-type: none"> 期待感をもっていることを、表情や動作も使ってイメージさせる。 <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「赤ちゃんがいるかな?」って思っていたら、その通りになって喜んでいるんだね。こんなときに、「まちがいありません。」って言い方があるよ。ちょっと使ってみようか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 獣医さんがやったことを振り返りながら、ポイントで吹き出しを提示して「まちがいありません。」を使うことで、響きやリズムを感じさせる。 絵やペーパーサートを使って「まちがいありません」という使い方を示し、実際に言葉を使って演じてみる。(A,B,C) 教科書に線を引いて意識付けをする。(ウ) 	<ul style="list-style-type: none"> 赤ちゃんがいるとわかった時どんな気持ちかを考えながら答えているか。(A,B,C,F) 赤ちゃんがいるとわかるとうれしい気持ちになることがイメージできるか。(D,E) 音の響きを楽しんで(D,E)表情をつけながら表現することができるか。(A,B,C,F) 意欲的に言葉を使ってみようとしているか。
<p>3. 獣医がいのししに対してした仕事と、そのわけをまとめる。</p>	<p>10分</p> <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>では、もう一度教科書を読んで、獣医さんがいのししにしたことと、そのわけをプリントにまとめてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 学習プリントを配付し、獣医がやったことや考えたことを順番にたどりながら、必要な言葉を入れてまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 理解したことをイメージしながら読んで、

	<ul style="list-style-type: none"> 板書を具体的に示したり、絵のペープサートを操作したりして、学習内容が想起できるようにする。(D,E,F) 	<p>プリントに言葉を記入しているか。</p>
	<div style="border: 2px dashed black; padding: 5px;"> <p>最後に、教科書を読んで、わかったことや考えたことがあったら、プリントに書いてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 授業中の個別の発言を必要に応じ 取り上げ、手がかりを与える。 「へえ。すごいな。」「そうなんだ。知らなかった。」等という例をあげて、イメージしやすくする。 Eに対してはT 2が個別に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 素直な自分のつぶやきや言葉を書いているか。(A,B,C) やりとりをもとに考えを書こうとしているか。(D,F) 自分で考えようとしているか。(E)

6 板書計画

④ 動物園地図

じゅういがいのししのおなかをきかす。

じゅういさんは どうすればいい。

いのししのおなかにきかきを当て。

おなかをきかす。

いのししのおなかの中に
赤ちゃんがいるがみただ。

いのししは「わがま。

④

だが、どんなときか。

じゅうい → そのときかきを当てた。

しゅういん → えさをあげた。

「まちがありません」… 赤ちゃんがいた。


<ワークシート>

④

まちがありません。赤ちゃんがいた。

えさを食べさせた。

当ててみた。



じゅういのくふうしたこと

いのししのおなかに

な

を

← 危から


いのししチェック

おなかのようすを

きかきを おなかに当てると、

いのししは

ために、



7 授業の実際

(1) 本単元の事前指導

本実践では、小学部全体で協力して学習指導案の展開の検討や教材作りなどを行った。T2は、ワークシートの作成、動物の生態や動物園に関する動画や画像などの用意を行った。

① 教材文で用いられる言葉の理解を促すための指導

ア 動物、動物園に対するイメージを持たせるための取組

自立活動や生活科の時間に、「動物博士になろう」というテーマを設定し、動物に関する内容を扱った。動物についてイメージを持つだけでなく、「野生動物」と「動物園にいる動物」の違いにも気付かせたいと考えた。したがって、「キリンの出産」(産まれてから立ち上がるまで)や「ライオンがキリンを食べる様子」をビデオで見る場も設定した。児童からは驚きの声が上がっていた。

イ 動物の動作(「食べる」と「食べられる」)の表現に慣れるための取組

自立活動の時間などで「食べる」「食べられる」見立て遊びをしながらの言語指導を行った。

ウ 動物や動物園に関する図書環境作り

図書コーナーを設けるとともに、絵本の読み聞かせや教師の話の聞かせ、獣医や飼育員がする仕事のイメージを持たせた。

エ 「動物が怖がる」ことの意味を促すための取組

担任が自宅で飼っているウサギを子ども達に触らせた(「動物が怖がる」様子を実際の体験を通して感じさせるため)。

オ 家庭との連携

夏休み中、家族で動物園に行ってもらおうよう、家庭にも働きかけた。動物自体をあまり知らない児童が多いこと、実物を見たことがない児童もいることから、学習に入る前段階の経験を広げることがを意図した。

カ その他

出産後休暇をとっていた教員が、胎児のエコー写真を持ってきて、学級の児童に見せてくれた。検査であるということは、何となく知っている児童もいると思われる。

(2) 授業記録

学習活動と教師の働きかけ	児童の反応	教材活用等
<ul style="list-style-type: none"> 昨日まで獣医さんの仕事を読んで考えてきました。今日も考えていきましょう。それでは、めあてを読みましょう。 獣医さんは、見回りが終わる頃…?(裏返したペープサートを見せる) そうだね。それじゃあ、今 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Cは、当日欠席 全員めあてを読む 「じゅういがいのししにしたことを考えよう。」 A「(ぼくは休んだから)昨日しなかった。」 A「獣医さんが、いのししのところに行きました。」 	<ul style="list-style-type: none"> めあてカード ペープサート (じゅうい)

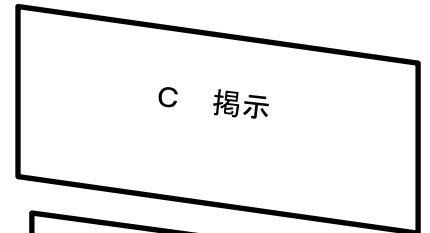
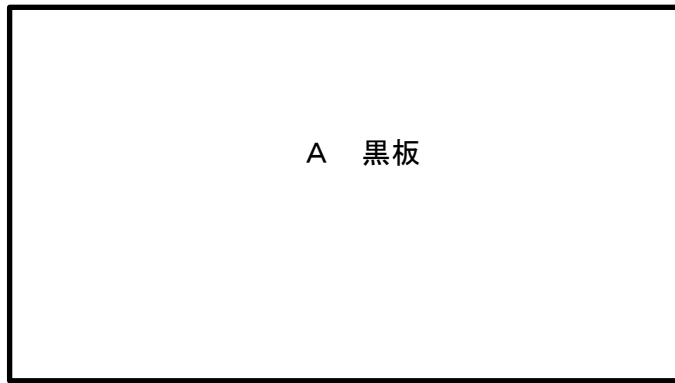
<p>日勉強するところを読みましよう。今日は、Bさんからまる読みをしましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 獣医さんは、イノシシのところに行ったね。そのわけは？ どうして行ったんだっけ？ (獣医のペープサートを動物園地図に近づけて) ・ 線を引いたよね。 ・ うん、そこに書いてあるけど、ちょっと長いなあ。わけは？ 書いてあるよ。 ・ そうだね。赤ちゃんがいるかどうか見てほしいって、呼ばれたんだよね。じゅういさんは、部屋に入ったね。どうすれば、赤ちゃんがいるかどうか、分かるのかなあ？ ・ (教科書に) 書いてあるよ。 ・ うん、書いてある。じゃあ、どうすればいい？ ・ 絵が描いてあるね。 ・ (板書)「おなかにきかい 	<p>Bから1文ずつ順番に音読する。読み間違いがあった場合は、再度読み直す。</p> <p>D,E「機械をあてな」→「<u>機械をあてて</u>」</p> <p>F「食べて」→「<u>食べさせて</u>」</p> <p>A、B、E「いる…」→「<u>いるかどうか</u>」</p> <p>F「～なけ…」→「<u>～なければなりません</u>」</p> <p>A「しいくさん」→「<u>しいくいんさん</u>」</p> <p>B「なーい。」</p> <p>A「ぼくも。(昨日)休んだから自信がない。」</p> <p>E (掲示してある本文を見つめてから挙手) 「見回りがおわったころ…いのししのおなかに… (教科書の文を抜き出して読む。)」</p> <p>D「しいくいんさんに呼ばれて、いのししのおなかに赤ちゃんがいるかみてほしい…？ 見てほしいからです。」 →教師の模倣 D「いのししのおなかに赤ちゃんがいるかどうか見てほしいからです。」</p> <p>D「産めば、分かるかなあ…。」</p> <p>D (本文を見るが首をかしげ)「(書いて)ない…。」</p> <p>A「機械を当てます。赤ちゃんの機械を当てます。」</p> <p>B「おなかの中の様子をさぐるためには…って、書いてある。」</p> <p>A「おなかに機械を当てます。」</p> <p>D「おなか？ きかい？」</p> <p>A「(挿し絵を指差し) 飼育員の手も描いてある。」</p>	<p>ペープサート (じゅうい) 動物園地図</p>
--	---	------------------------------------

<p>を当てる。」</p> <ul style="list-style-type: none"> • (教科書に) 書いてある？ • 「さぐる」って、どういうことかな？ やってもらおうかな。 • 機械のつもり。はい。(Bにエコー検査機に見立てた箱を渡す。) • どうしたの？ • 「さぐる」って、どういうことだろう？ • 赤ちゃんはどこにいるの？ • (用意したイノシシの絵を出そうとするが、見当たらない。) あれ？ イノシシはどこにいったのかしら…？ 困ったな。 • ああ、Aさんイノシシをやってくれるの？ ありがとう。(機械を持ち、四つん這いになったAを指しながら) 赤ちゃんはここ？ ここ？ おなかって言ってもいっぱいあるよ。誰か、探ってみて。「(ここには) いない、(ここにも) いない、どこかなあ…。」 っていう 	<p>F 「さわればいい。」 F 「(書いて) ない。」 B 「おなかの中の様子を見る。」</p> <p>B 「(教師に向かって) 誰 (の役をするの) ？ じゅうい？…機械がほしい。」</p> <p>B (おなかに当てる機械に見立てた箱を手にしてウロウロする。) B 「機械を当てると、テレビとつながってるの。」 A 「〇〇先生と同じみたいに。」 (以前、出産した先生から胎児のエコー検査写真を見せてもらったことを思い出す。)</p> <p>A 「ぼくもやりたい。」 (Bと交代。機械を当てるまねをしながら) 「ピッ、ピッ、ピッ。」 F 「いのししのおなかです。」 B 「ちがいます…ううん、さんかくです。」 A 「いいです。」</p> <p>A 「ぼくが、やります。(自分の消しゴムを持ち) これ、赤ちゃん。(赤ちゃんに見立てた消しゴムを自分のお腹の中に入れる。そして、黒板前に出てきて四つん這いになる。)」</p>	<p>エコー検査機 に見立てた箱</p>
---	--	--------------------------

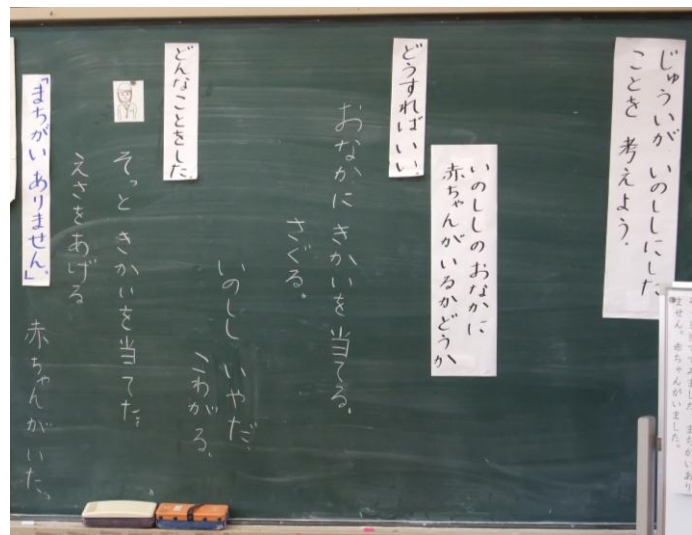
<p>のが「さぐる」です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (赤ちゃんは) いる？ ・ (赤ちゃんは) いる？ ・ (「どんなことをした？」カードを黒板に貼る。) ・ いのししは、どんな気持ち？ ・ 前に先生の家ウサギ「○○ちゃん」を持ってきたよね。○○ちゃんは、どうだった？ ・ (本文を指し) ここには、何て書いてある？ ・ こわがらないように、どうする？(椅子をイノシシに見立てて黒板前を出す。椅子を指差して) これ何？ ・ ウサギの○○ちゃんは、逃げちゃったね。 ・ 獣医さんはどうしたの？ ・ そう書いてあるけど、獣医さんはどうしたの？ ・ どうするのかな？やっpegらん。 	<p>E (機械を手に持ちAに近寄る。教師から「あなたは誰？」と尋ねられ、掲示してあったペープサートを見て)「(私は)じゅういさんです。」</p> <p>E (A児のおなかの何か所かに機械を当てて)</p> <p>E 「いない。(と言って別の箇所に機械を当てる。)」</p> <p>E 「いた。」</p> <p>B 「暗い気持ち。」</p> <p>F 「こわい…？」</p> <p>E 「…やだ。」→教師の模倣「いやだ。」</p> <p>F 「こわい…かなあ…？」</p> <p>B 「にげちゃう。」</p> <p>A 「やだって思ってる。こわかった。」</p> <p>→教師の模倣「こわかった。」</p> <p>B 「こわいから、逃げた。」</p> <p>B 「こわがらないように。」</p> <p>F 「こわがらないように。」</p> <p>E 「いのしし。」</p> <p>D 「…？いのしし。」</p> <p>E 「えさをあげる…？」</p> <p>F 「イノシシがこわがらないように、えさを…。」</p> <p>A 「そっと機械を当てたと書いてあります。」</p> <p>D 「じゅういさん、いのしし、機械を当てる。」</p> <p>E (イノシシに見立てた椅子の前に出てきて、機械をおなかにそっと当てる動作をす</p>	<p>文字カード</p> <p>本文拡大版</p> <p>いのししにみたてた椅子</p>
--	---	--

<ul style="list-style-type: none"> ・ 「そうっと」とは、当てることなんだよね。じゃ、そうっと当てればいい？大丈夫？平気？逃げない？他には？ ・ どうですか？ ・ (板書)「そっときかいを当てた。」「えさをあげる。」 ・ 誰が、えさをあげるの？ ・ やってみてください。 ・ この時、赤ちゃんがいたら、どんな気持ち？ ・ うれしい気持ちですね。そういうとき… ・ (「まちがいありません。」カードを黒板に貼る。) こういうふうに言います。 ・ みんなで、獣医さんと飼育員さんになってください。 ・ 飼育員さんは？ ・ それでは、教科書を見ながら、プリントをまとめてください。 ・ これで、今日の勉強を終わります。 	<p>る。)</p> <p>F (同上)</p> <p>B 「獣医さんが機械をそうっと当てます。」</p> <p>F 「えさ？…えさをあげる。」</p> <p>A、B 「いいです。」</p> <p>D 「飼育員さん？…飼育員さんです。」</p> <p>F 「違います。」</p> <p>A 「いいです。」</p> <p>B 「飼育員さんです。」</p> <p>A (獣医の役) F (飼育員の役) になる。Aは、イノシシのおなかに機械を当ててさぐる動作、Fはえさをあげる動作をする。</p> <p>F 「うれしい。」</p> <p>A (うなづく。)</p> <p>A 「やった！わーい！」</p> <p>男児は飼育員役、女児は獣医役になり、交代で動作をする。</p> <p>(女児はさぐった後)「まちがいありません。」</p> <p>男児「やった！」</p> <p>全員 (プリントに書く。)</p> <p>A：イノシシに赤ちゃんがいたから、ばんざい。</p> <p>B：ばんざーい。赤ちゃんがいたから、ばんざい。</p> <p>D：機械を当てると、赤ちゃんがいたんだ。</p> <p>E：いのししが、うれしい。</p> <p>F：赤ちゃんがいた。うれしいな。</p>	<p>文字カード</p> <p>ワークシート</p>
---	---	---

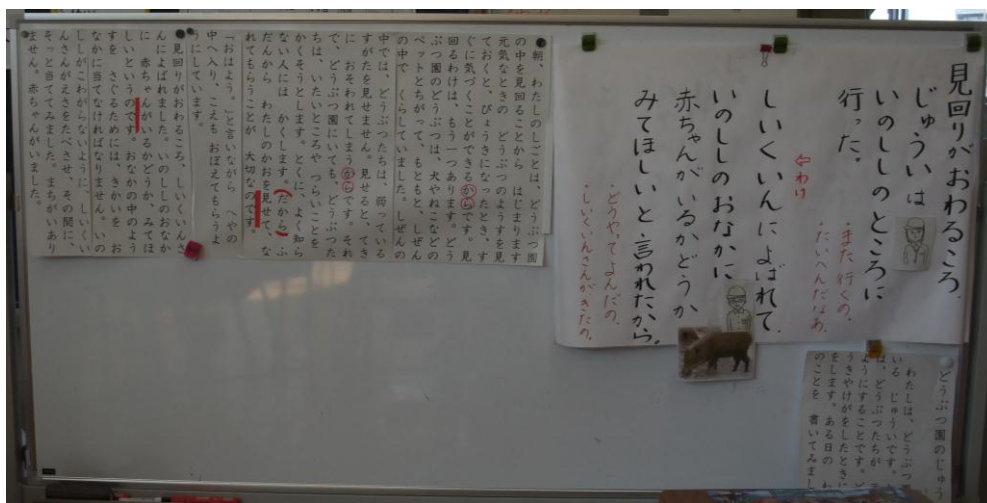
【当日の板書、教材の配置等】



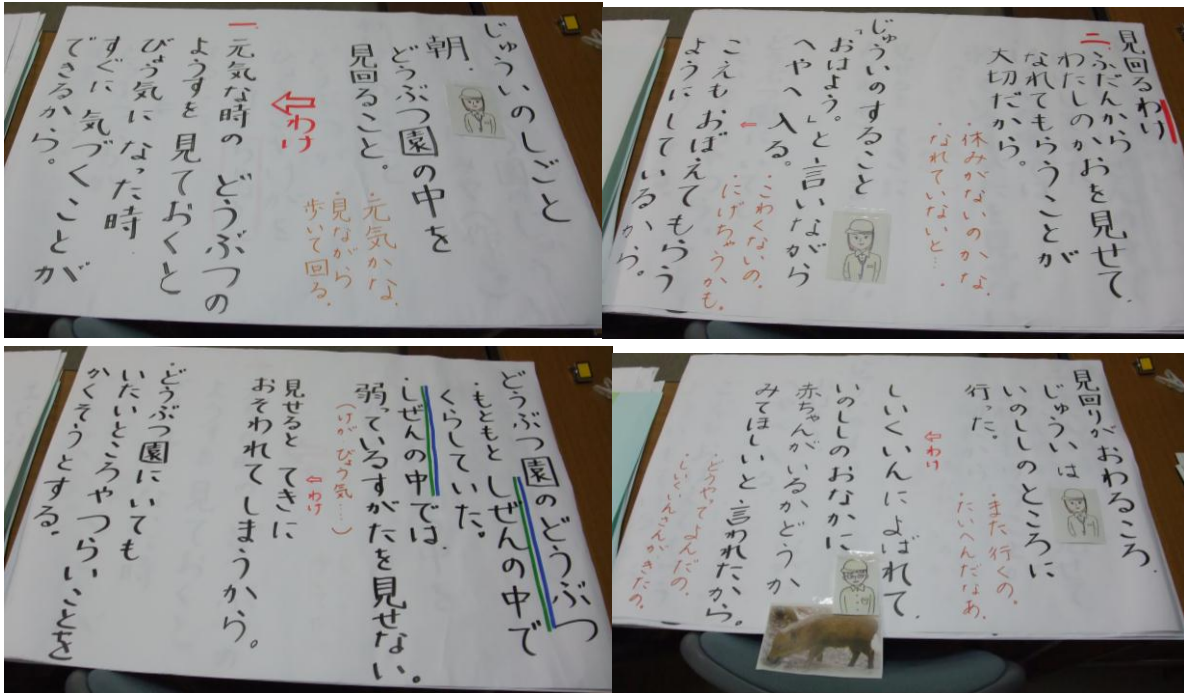
A 黒板



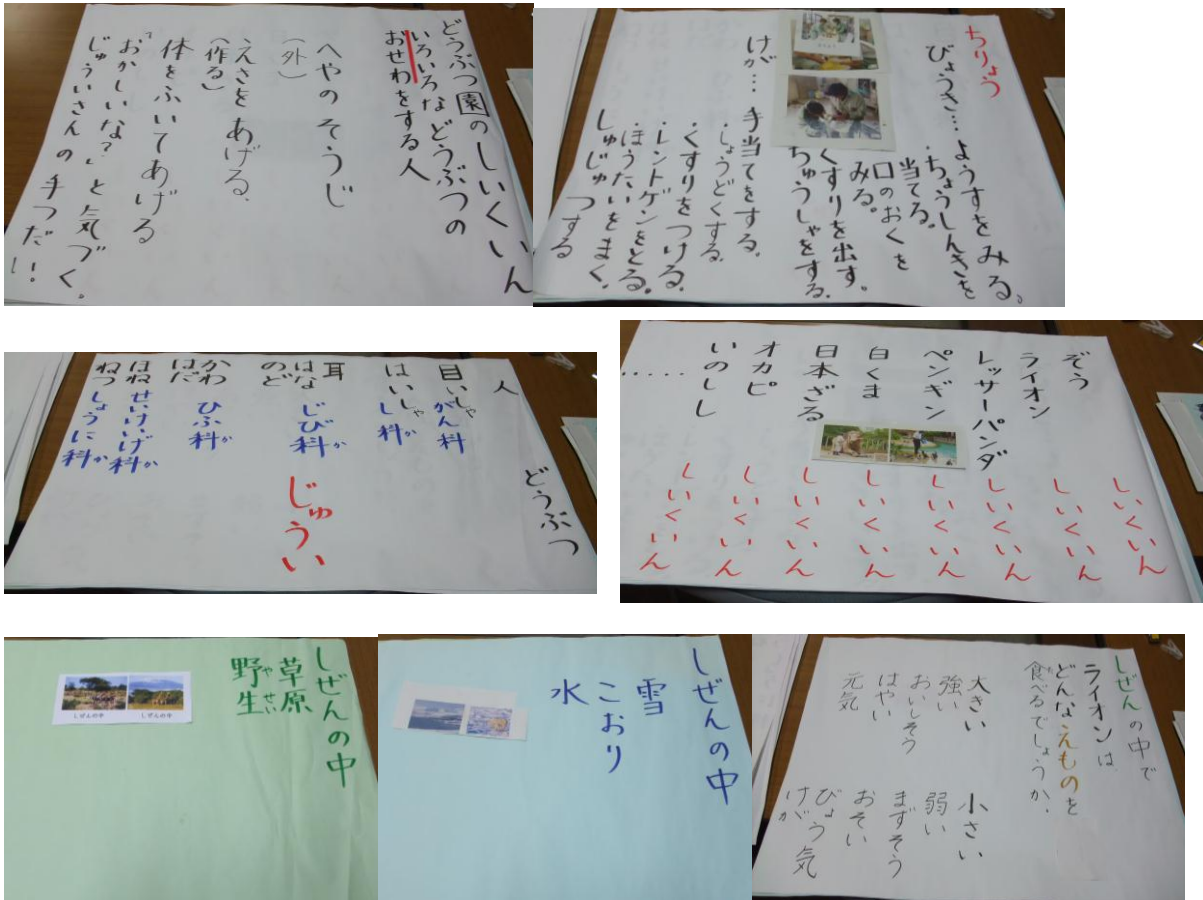
B-1 小黒板



B-2 小黑板



C 掲示



8 授業研究会での協議

(1) 参加者

本校管理職及び小学部教員、研究協力者、研究協力校関係者

(2) 主な協議内容

授業者が提案した「授業の視点」に基づき、本時の指導において、教材の活用が児童の意欲を高めたり、書かれてあることの理解を促すことに役立ったりしたかについて協議・意見交換を行った。

① いのししのおなかをさぐることを読み取るための教材と活用

ア 授業者の意図

- ・ 本題材の指導を実際に始めると、教材文の難しさ（主語の省略が多い、使用される語句の意味が難しい）を改めて感じた。本時では、いのししの拡大写真を掲示して見立てられるように机上に用意していた。ところが、本時では見当たらなくなり、戸惑った。椅子をいのししに見立てようかとも考えたが、Aがいのしし役をしてくれたので、子ども達にも分かりやすかったようだ。動きが大切であることが改めて分かった。見立てたり動作したりする活動は、子ども達も大好きであるが、動作だけで終わらせると、考える習慣が育たず、分かったことも定着しなくなってしまう。体を動かしながら思考させていくことが重要だと思うが、その意味でもAがいのししになってくれて良かった。「こわがらないように」「えさを食べさせて」「そっと」はどうしても扱いたかったが、児童の思考をそこまで巡らせることができなかった。

イ 参加者からの意見

- ・ Aが「いのししになってあげる。」と言ってくれたことで、かえってイメージがたくさん出てきて良かった。
- ・ 動作することでイメージしやすいことがある。本時の場合は、「そっと当てる」。また、「そっと」は、使用する場面により色々な意味がある。一般的に使用する際の「そっと」と、本時で用いる「そっと」では意味が異なるので、動作することで子どもは理解できたのではないか。
- ・ 小学2年の息子に「さぐる」の意味を尋ねたところ、動作でしか表現することができなかった。聞こえる子どももまだそのレベルである。本時で動作化したことで、「さぐる」と「当てる」の違いが分かったのではないか。
- ・ 「さぐる」という言葉は、動作だけでその本当の意味を表すことはできない。「(何かを)探す」という目的が伴った言葉である。したがって、単に動作すれば良いのではなく、動作する子ども達には、赤ちゃんがいるかどうか探すことを意識させながら動作するように仕向けていくことが大切だと思う。
- ・ 「さぐる」の意味を語用論的に考えると、相手が動物でなく人間ならば「さぐる」とは言わないだろう。「さぐる」という言葉自体には、探索する、マイナスの意味合いがある。このような一般的な意味と、教材文で使われている意味の違いを意識した上で指導することが大切。
- ・ この場面は、いのしし、獣医さん、飼育員さんの3者が出てくるため、「誰が、何をしていた、どんな気持ちか…」など、考えなければならないことがたくさんあり、子ども達には難しいのではないかと考えていた。しかし、動作化することで女兒も理解することができたと思う。はじめは、獣医さんのみの動作化をして「そっと当てる」や「さぐる」の理解

を図り、その後、獣医さんと飼育員さんのやりとりを動作化していて良かった。動作化する際は、「子どもに何を理解させたいか」を教師が明確にし、「そのために、どのように動作化させるか」を考えることが大切だと感じた。

- ・動作化は体験に近いことができるが、教材文に出てくる内容は全て体験できることではない。体験できないことを読み取ったり考えたりしなければならないこともある。体験できないことをいかに「今のことから思い巡らせ考えるか」といった場面を授業で仕組んでいくことも大切である。

② ペープサートの活用

ア 参加者からの意見

- ・学部で教材作りを分担し、依頼されて登場人物のペープサートを作った。子どもの理解を助けるようなもの、しかし、余計な先入観を与えないような絵を意識した。ペープサート一つ作るにしても、教材文の読み取り、教材研究が重要だと改めて感じた。また、どのような絵や教材だと良かったのかを話し合うことで、自分の授業作りに還元することができる。
- ・ペープサートには動きの方向が分かりやすいなどの良い点がある一方、表現できる内容に限界がある、操作にのみ子どもの関心が移ってしまうなど短所もある。目的に応じた使い分けが大事だと思う。

9 考察-教材活用の視点から-

本教材文「どうぶつ園のじゅうい」（光村図書 こくご2年上たんぽぼ）の授業及び学級担任への聞き取り、授業研究会での協議を通して、以下のことが明らかになった。

（1）聴覚障害児にとっての教材文の難しさ

本教材文では、まず、説明文の舞台となる動物園、動物、獣医に関する子ども達のイメージや理解が教材文を読むには不十分であることが挙げられる。動物の名称、動きや生態、野生動物と飼育されている動物との違い、獣医の仕事、飼育員の仕事、動物の世話をすることなど、子ども達が持っている知識やイメージに加え、教材文を読み取るための背景となる知識や言葉の理解を促す必要がある。

また、動物が食べる、食べられるといった能動文と受け身文、使役文、主語の省略、複文が多く、動作者と動作の方向を誤って理解してしまうことも難しさとして挙げられる。

さらに、本実践を通して「さぐる」「あてる」など一般的な意味と教材文で用いられている意味とが異なり、抽象的な動作語も難しさとして挙げられる。「そっと」など様子を表す言葉も同様に場面や状況によって意味が変わってくるため、辞書で示されている意味だけで理解を促すことは難しい。

（2）教材文の難しさに対応するための事前指導や他教科との関連

本実践では、難しさが予想された動物園や動物の生態、獣医や飼育員の仕事に対する知識やイメージを持たせるため、自立活動や生活科の時間で動物に関する学習が行われた。特に、野生動物の生態に触れるため、動画や実際に動物に触れる機会を設けたことは、飼育員や獣医が世話や診察をする際の苦勞を知る土台になるものである。

また、自立活動の時間では、見た手遊びを通して「食べる」「食べられる」の理解や使用に慣れさせる機会となった。

(3) 教材の意図と活用の仕方

本実践を通して、次のような教材の意図と活用がなされた。

① 教材文を読むために必要な知識の理解を促すための教材

- ・ 動物園の地図を拡大したもの
- ・ 動物園にいる動物の名称と写真
- ・ 飼育員の仕事をまとめた模造紙
- ・ 獣医とその仕事に関する情報をまとめた模造紙（治療の際に用いる言葉、医師の名称）
- ・ 「自然」の場面の写真や具体例をまとめた模造紙
- ・ 動物や飼育に関する図書

これらの教材は、事前に生活科や自立活動等で学習したものを掲示しておくことで、教材文を読み進めるための既習事項として必要な時に注目させたり、児童自身が手がかりとして活用したりすることができる。また、絵や写真など見て分かることに留まらず、文や言葉を添えて掲示したり、子ども達の生活と対比させて名称やすることをまとめておくことで、言葉による言葉の理解を促すことが期待される。

② 抽象的な動作語、様子を表す言葉などに基づき場面の様子（きかいをそつとあてる、おなかをさぐる）の意味理解を促すための教材

- ・ イノシシの絵、エコー検査機器に見立てた小箱
- ・ 獣医と飼育員のペープサート

本時ではイノシシと獣医、飼育員がすることを正しく読み取りイメージすることができるようイノシシの絵を用意し、動作化することを意図していた。当日、イノシシの絵が見当たらなくなるというハプニングがあったものの、児童が自らイノシシ役を買って出たことで、体を動かしながら言葉や文を理解する機会となった。教材活用の視点から考えると、このような教材文の特徴や難しさを明らかにした上で、具体的なイメージ化を図る手立てを考え、授業に仕組んでいくことが必要である。

なお、ペープサートについては、動きが分かりやすいものの、表現できる内容に限界もあること、子どもの関心が操作にのみ移ってしまうなどの短所もあることが指摘され、目的に応じた使い分けが重要であることが話題となった。

③ 次時の既習事項となるようなワークシート

本実践では、板書と児童のワークシートを同じ様式とし、既習事項として活用することを意図して作成された。教師がまとめる際は、色分けの約束を学級で決め、子どもにも知らせる方法もあることが提案されていた。

また、授業でワークシートを活用する場合は、子ども自身が「何を書くのか。」が分かるようなワークシートを作成することも確認された。

なお、本実践では、イノシシの表情がすでに描かれているワークシートを作成していた。個人差の大きい学級で、言語の遅れのある児童への配慮となる一方、子どもが絵のみを手がかりに理解したり解釈したりすることも予測されることも指摘された。このことから、ワークシートを作成する場合、「何のために、どのような情報（文字、絵、図など）を盛り込み、どのように活用するのか。」を明らかにしておく必要がある。また、ワークシートを活用する場合は、児童の実態に応じて、発問や個別の指示を検討し、「絵を手がかりにして考える。」、「絵と本文を手がかりにして考える。」、「本文を手がかりにして考える。」など個々の児童のねらいが達成されるよう留意する必要がある。